

# MIRAI

[人と防災未来センターニュース]

[人と防災未来センターニュース]

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター



Vol.

13

Contents

特集	阪神・淡路大震災から10年	1
	Memorial Conference in Kobe X	2
	両陛下センターご訪問	3
	国連防災世界会議	4
	総合フォーラム	5
	震災の教訓を伝える資料たち	6

## 特集

## 阪神・淡路大震災から10年



「追悼の灯り」を献灯する遺族代表者



追悼式典の様子



「しあわせ運べるように」を歌う児童ら



会場の様子

## 炊き出し大会

1月15日にセンター敷地内において人と防災未来センター友の会による10周年記念炊き出し大会が開催されました。あのときの人々の温もりを忘れないことをテーマに、多くの市民、ボランティアの協力を得て、あいにくの雨にもかかわらず約1,500人(3,400食)の参加がありました



# Memorial Conference in Kobe X

## メモリアルカンファレンス・イン・神戸 10年の総検証

**Memorial Conference**は1996年から2005年までの10年間、毎年継続して開催されており、今回はセンターにおいて、この10年間で「阪神・淡路大震災の教訓は、どう生かされたのか、生かされていないのか？」の総検証を行うとともに、どのように次の世代に継承するべきかを検討するために1月15日、16日行われました。

6つの分科会に分かれて議論するとともに総活会において成果が発表されました。

### • 分科会



- セッション1 「被災者の自立とその支援は適切だったのか?」
- セッション2 「市民は地震とどう付きあえば良いのか?」
- セッション3 「社会基盤の安全性は、どれくらい高まったのか?」
- セッション4 「すまい・まちの再建は、どう進んだのか?」
- セッション5 「今、危機管理能力は高まったのか?」
- セッション6 「地域経済は、立ち直ったのか?」



6つの分科会に分かれて議論を行った後、総合討論（パネルディスカッション）において次の成果が発表されました。

震災の教訓とは実際に起きたことからだけ学ぶのではなく、幸い起らなかったことの中からも想像をたくましくして、世界でつぎに起こる災害のために備えることも含まなければならない。

阪神・淡路大震災はいかに規模が大きくとも、やはりひとつの「事例」に過ぎない。阪神・淡路大震災については今後も検証を続けるだけでなく、災害から教訓をくみ取る作業を他の災害についても行い、教訓そのものを豊かにしていく必要がある。



### • メモリアルコンサート

震災後、被災者の心にいろいろな歌が響きました。歌だけでなく音楽、詩、芸術、演劇などが人々に生きる力を与えてきました。このメモリアルコンサートはいろいろな分野のアーティスト達が、それぞれの形で震災の想いを伝えました。



ポスター SESSION の様子



①ナターシャ・グジーさんによるバンドウラの演奏



②弓張美季さんによるピアノ。このピアノは震災で壊れ修復した。



③大阪音楽大学卒業生有志のみなさん



④劇団「夢サーカス」によるミュージカル



### • その他

メモリアルコンサートの隣の会場ではポスター SESSION、なぎさ公園では救助資機材、災害対策車両等の防災関連展示が行われました。

防災関連展示（なぎさ公園）

# 天皇皇后両陛下センターご訪問

平成17年1月16日、天皇皇后両陛下がセンターをご訪問されました。河田センター長のご案内で震災直後の破壊されたまち並みのジオラマ模型や震災から復旧・復興していくまちと人の姿を撮ったドキュメンタリー映像や震災資料の展示等をご覧になりました。

震災を語り継ぐコーナーではセンターの語り部ボランティアの西 雅一郎さん、秦 詩子さんに家の被害や家族の状況についてご質問され、「これからもボランティア活動を頑張ってください」と激励されました。



両陛下の質問に答える語り部ボランティア



両陛下に解説を行う展示解説ボランティア

## 「今後の展望:実践に基づく研究」シンポジウム開催

平成17年1月18日に第1回国際都市防災会議のセッションの一つとして、実践的防災研究の発信についてのシンポジウムが神戸市で開催されました。

これは、阪神・淡路大震災後10年を踏まえ、実践的なアプローチという観点で震災以後の防災研究における学術的発展を検証し、今後のありかたを、防災実務、研究側面から提言することを目的としています。



会場の様子

### ○基調講演

「阪神・淡路大震災以後10年間の防災研究とインド洋大津波」  
河田恵昭（人と防災未来センター センター長）

### ○パネルディスカッション 「実践的防災研究に期待すること」

#### コーディネーター

室崎益輝

（人と防災未来センター上級研究員・消防研究所理事長）

#### パネリスト

内山祐周 神戸市防災安全公社副理事長（前神戸市理事・危機管理監）

「防災行政の視点から防災研究に望むこと」

Grace Koch カリフォルニア州危機管理局 副長官

「カリフォルニアにおける最先端の実践的防災研究」

結びの言葉として、深澤副センター長が人と防災未来センター設立の経緯や今まで行ってきた成果及びセンターのミッションを紹介すると共に、研究者と実務者が互いに協力し社会に貢献することを念頭に置いて活動していくことの重要性を述べ、研究者と実務者が防災に対する価値観を共有出来るような、実践的防災研究に関する学術誌を年に1回発行することを提言しました。

## 国連防災世界会議

阪神・淡路大震災から10年を迎えた兵庫県神戸市で、世界の防災対策のさらなる充実強化を目指すため、平成17年1月18日から5日間「国連防災世界会議」が開催されました。

21の日全体会合で、当センターの深澤副センター長が、市民と行政とが連携し防災に対する様々な取り組みを推進しつつある防災博物館や防災関係施設を構成メンバーとする「災害語り継ぎネットワーク（TeLL-Net）」の発起人会（p5参照）を開催したことをふまえて、「人ととのつながりを基本とした情報共有といった視点から、国連の国際復興支援機構（IRP）の設立を補強することができ、非常に意義深い役割を担うことができ大変光栄思う。」と述べ、また、スマトラ島沖地震・津波で多くの津波映像が配信されたことについて、「実際に起きた災害を視覚的に訴えることが、人々の意識向上に一番つながりやすく、今後防災教育や調査研究に役立つように国際コミュニティ、特に国際メディアに携わる人々はこれらの映像を保存し、自由に閲覧できるようにしてほしい」と呼びかけた。

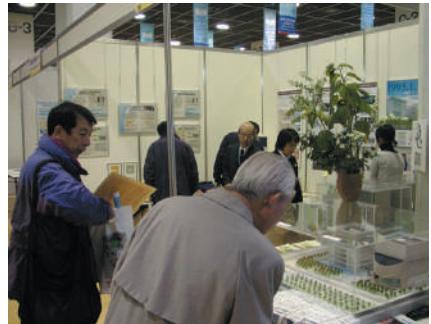
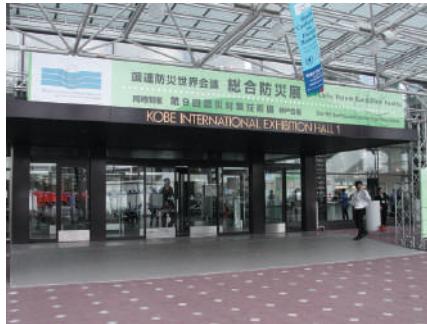
最終日には、今後十年間の防災戦略を示した「兵庫宣言」と、今後の行動指針をまとめた「兵庫行動枠組」が採択されました。



会合で発言する深澤副センター長

## 総合防災展

国連防災世界会議では、関連事業として総合防災展（震災対策技術展）が開催され、人と防災未来センターではセンターの建物模型、「震災直後のまち」のミニチュア模型、センター紹介パネル、防災グッズなどを展示しました。国連防災世界会議ということもあり、外国からの方も多くご来場いただきました。（震災対策技術展は今年で9回目を迎え、当センターも3回目の出展になりました。今年は国連防災世界会議の中に位置づけられ、会議の総合防災展として開催されました。）



また、センターでは阪神・淡路大震災“私たちの復興”プロジェクトについての展示も行いました。阪神・淡路大震災“私たちの復興”プロジェクトは、震災10周年を契機として、市民の参加を得て、これまでの復興に向かって歩みを市民一人ひとりが改めて振り返り、将来に向けて記憶にとどめ、これらの貴重な経験と教訓を阪神・淡路地域全体で共有する事を目的としたものです。

この取り組みの一つとして、神戸にとって象徴的な道路であるフラワーロードについて、市民の方々から提供された写真を基に震災前・震災直後・現在の3つの時点を3次元GISで再現する“フラワーロードプロジェクト”が完成しました。国連防災世界会議の総合防災展では、デモンストレーション映像のほか、50インチのタッチパネルディスプレイにより、3次元映像の操作を体験した来場者から大きな反響を得ました。



フラワーロードを3次元GISで再現



50インチのタッチパネルディスプレイで説明を行う職員

## 総合フォーラム

平成17年1月18日(火)約550名の聴衆を集めて、JICA等と、ピース・トーク・マラソン With 国際防災・人道支援フォーラム2005を開催しました。

小泉純一郎内閣総理大臣、貝原俊民(財)阪神・淡路大震災記念協会理事長らが出演したセッションに引き続き、「市民ひとり一人が大災害の経験を風化させることなく、大災害を語り継ぐことの大切さ」「国際平和や国際防災協力活動において私たち1人ひとりにできること」をテーマに、パネルディスカッションを開催。山口一史さん(ひょうご・まち・くらし研究所常務理事)がコーディネーターを務め、斎藤容子さん(海外災害援助市民センター:CODE)、金千秋さん(FMわいわいDJ)、トゥルン・バシュトウルクさん(アダパザル市長補佐官、トルコ)、ヒュー・デイビスさん(パプアニューギニア大学教授)が、各々の災害を語り継ぐ手法の紹介、苦労している点、大事だと思う点等を討議しました。国家ベースのみならず、草の根ベース・市民ベースでの語り継ぎの大切さが再確認されました。

続いて、兵庫県西宮市出身で、震災時に約2ヶ月間、避難所に物資を届けるなどした女優の藤原紀香さんが登壇し、「崩れた街を歩き、生きていることは当たり前じゃないと強く思った。当時の記憶を風化させず、語り続けたい」と話しました。



小泉首相(左端)と貝原理事長(左から2番目)出演のセッション



パネルディスカッションの様子



女優の藤原紀香さん(左から2番目)も参加

## 災害語り継ぎネットワーク発起人を開催

人と防災未来センターが事務局をつとめる国際防災・人道支援協議会(DRA)は、「大災害を語り継ぐ」をテーマに平成16年2月と平成17年1月にDRAフォーラムを開催し、そこで議論の流れをふまえ、「大災害を語り継ぐ」具体的な活動の第一歩として、単に災害の記憶を残すだけではなく、減災に実践的に貢献する視点を持ちながら、市民と行政とが連携しつつ防災に対する様々な取り組みを推進しつつある防災博物館や防災関係施設を構成メンバーとする「災害語り継ぎネットワーク(TeLL-Net)」の発起人会を平成17年1月19日に12カ国13名をメンバー(当日の参加は9カ国)として開催しました。この成果は、翌20日の持続的開発と防災教育をテーマにユネスコとDRA等が共催した国連防災世界会議のテーマ別会合において河田センター長から報告しました。

また「災害語り継ぎネットワーク」の発足会議を平成18年1月に開催する予定です。

### <ネットワークにおける主な活動(予定)>

- 1) 各施設で取り組まれている展示、普及啓発、防災教育等についての手法・成果・評価等についての情報共有
- 2) Tell-Netの全体像を紹介することを目的としたウェブサイトの設置・運営
- 3) 年間行事や特定の行事に対する情報交換を目的としたメーリングリストの設置運営
- 4) 構成機関持ち回りによる会合の開催
- 5) 新規の防災博物館や防災関係施設の建設、計画に際しての支援

# 震災の教訓を伝える資料たち

—阪神・淡路大震災から10年—

阪神・淡路大震災から10年目を迎え、各地でさまざまな催しが開催されました。震災の記憶を風化させないためには当時を振り返り、学んだ教訓を次に伝えていくことが必要です。震災の状況を客観的に伝えるものとして震災資料が資料室で大切に保存されています。これらの資料は目にする人々の心に地震災害の怖ろしさを訴え、日ごろからの防災に対する取り組みの重要さを語りかけています。

## JR 京都駅では…



【写真提供】京都市下京消防署

災害に強い町づくりをテーマに「京都に大地震が！震災パネル展」が開催されました。被災直後の神戸を写した写真のパネルやセンター資料室より貸出提供された、倒れてきたタンスから命を救ったゴミ箱や強烈な地震エネルギーを受けて無残に変形してしまった道路脇の側溝の蓋などが展示されました。当時の状況をそのままに綴る資料は来場した人たちにとって防災を考える上でのよい契機となりました。

## デュオこうべでは…

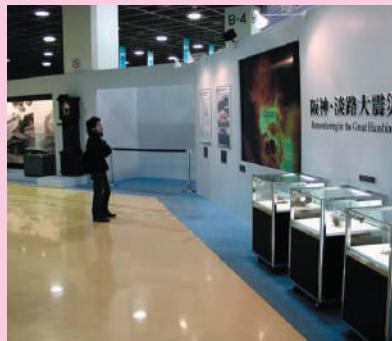


【写真提供】神戸新聞社

震災10年展「守れ いのちを」は震災発生時から現在に至る復興過程を資料や様々な研究成果をもとに減災について改めて考える展示となりました。1/14～/23に開催されたこの催しでは延べ3万人以上が来場し、当時を振り返り、災害に対する備えの重要性を学びました。

震災後各地に設けられたモニュメントを地図で表したセンター資料室所蔵の『震災モニュメントマップ』や被災状況を分かりやすく色分けした『神戸・阪神間建物被災状況図』にも多くの来場者の関心が寄せられました。

## 国連防災 世界会議では…



世界各国の防災担当者が集まり、国連主催で防災についての相互理解を深める国連防災世界会議が2005年1月ポートアイランドで開催されました。今回の会議では約170カ国が参加し、災害・防災に関する活発な意見が交換されました。併設された展示場には2004年末に起こったスマトラ沖地震・津波災害の報告とともに、阪神・淡路大震災の被災状況とその復興過程も紹介され、各国の注目を集めました。

会場には震災直後に時を止めてしまった柱時計をはじめ、センターに寄贈された当時を語る様々な資料が展示され、10年前の震災の記憶を来場者に静かに伝えていました。

## 阪神・淡路大震災“わたしたちの復興” プロジェクト「個人復興史」募集中

募集期間：平成18年3月31日まで

「個人復興史プロジェクト」とは、被災者が震災からどのように復興したのかを、市民自らが写真や文章で位置情報とともにコンピューター地図上に記録し、デジタルデータとして後世に継承するとともに、インターネットを通じて国内外に効果的に情報発信します。

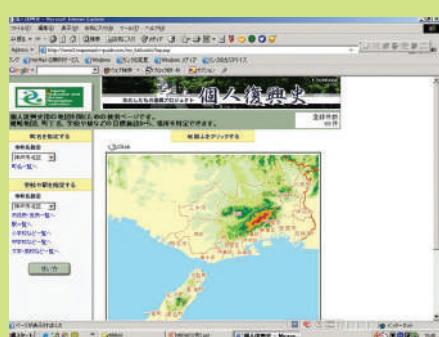
### 募集内容

- 個人、団体、地域、学校等の復興の歩みや復興への取組がわかる写真（震災前、震災直後、復興への取組、現在）  
※簡単な説明コメントを書き込んでください。
- 震災時の思い又は復興にいたる経過をつづった文章など

### 募集方法

- ご家庭等にあるパソコンから、人と防災未来センターのホームページを通じて入力していただきます。  
URL:<http://www.dri.ne.jp>
- ご自分でパソコンから入力できない方は、人と防災未来センターへ写真等を郵送していただいても結構です。郵送の場合は、予め下記に電話連絡をお願いいたします。

電話：078-262-5058（資料室）



# くすの木掲示板

## ～来館者からのメッセージ～

3月13日まで開催された特別企画展では、「くすの木掲示板」に来館者の方に書いていただいたメッセージを貼っていました。沢山のメッセージをいただきましたが、ここではその一部を紹介します。



「非常によい展示だと思いました。命の大切さをかみしめながら生きて行きたいと思います。」

「私は神奈川県の者です。昨年の新潟中越地震やスマトラ沖地震の事を考えるととても怖いです。神戸のみなさんから教えてもらった知識を忘れないよう、予測、予備などをしていくたいと思います。」

「今日は日頃スポーツで関わっている小学生の子ども達を連れてきました。西宮（兵庫県西宮市）ですし、阪神大震災の前後に生まれた子どもたちですので、知つておいて欲しいと思いましたが、私が涙してしまう映像が多かったです。新潟の方々に思いを寄せて貰ふことを願っています。」

「当時は幼稚園であまり記憶がないのですが、心の奥の方では覚えているらしく、映像などを見ていたら胸がとても苦しくなりました。地震は逃げることができないものなので、上手に付き合っていくしかないと改めて考えました。助け合って生きよう！！」

「小学校5年の時に震災に遭い、家も全壊しました。10年経った今、改めてあの日を思い出し、日常生活の中で十分な備えをしておくべき事を強く感じています。この体験を今後に生かし、地震の被害を少なくできるようにしたいです。」

「静岡から來ました。大地震が来ると言われてから30年近くになります。県内では他県に比べて知識は高いと思いましたが、このセンターでいろいろ見て、体験して、まだまだ甘いと実感しました。阪神・淡路大震災よりもっと大きな地震が…と思うと本当に恐ろしくなります。帰ったらもう一度見直して、改善を図り、備えたいとおもいました。ありがとうございました。」

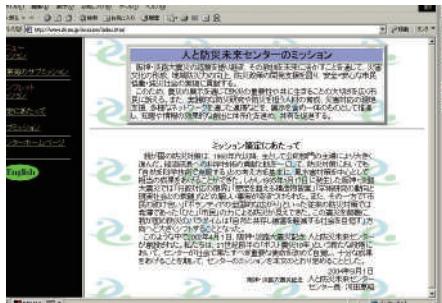
「新潟から來ました。こちらの地震は新潟よりもひどいですね。ただ、人の力、立ち直る力というのはどこでも一緒なんだと改めて気づきました。今、中越は大雪です。雪で家がつぶれています。今後の被害を増大させないため、是非中越にも来て下さい。同じ被災者として」

※ 1995年1月17日のあの日、くすの木は自らの幹と枝、そして青々とした葉で火炎の熱や炎をさえぎり、人々の命、私たちの住むまちを守ってくれました。くすの木は兵庫県の県樹として親しまれ、県内のいたる所で育ち、今も人々を見守り続けています。

## ミッションステートメント

センターの設立の趣旨と活動の現状を見つめ直し、中・長期的な視点を据えた目標を設定し体系化を図るため、平成16年4月にワークショップを開催し、それ以降も検討を重ね、9月にセンターのミッションステートメントが決まりました。

この度、ミッションがパンフレットにまとめられ、センターHPからも見ることができます。



(<http://www.dri.ne.jp/mission/index.html>)

## センター出版物のお知らせ

人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災から得られた経験と教訓を、次の世代や世界中の人々と共有し、今後の災害に対する被害軽減に貢献することを目的に「阪神・淡路大震災教訓集」を作成しました。

この教訓集は国連防災会議の参加者にも配布されました。

なお、教訓集はひと未来館1Fのミュージアムショップにて販売されます。  
(4月予定)

お問い合わせ先：センター企画運営部  
(078)262-5501



## 「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！



### 会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

### 年会費

<b>個人会員</b>	3,000円
<b>法人会員</b>	一口 50,000円
郵便振替：00940-2-160211	
口座名：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター友の会	

# MIRAI

## [人と防災未来センターニュース] Vol.13

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

### お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念  
**人と防災未来センター**

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 TEL.078-262-5060  
事務局／TEL.(078)262-5060  
観覧案内／TEL.(078)262-5050  
ホームページアドレス／<http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30～17:30(入館は16:30まで)  
ただし、7～9月は9:30～18:00  
(入館は17:00まで)  
金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
年末年始の12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休

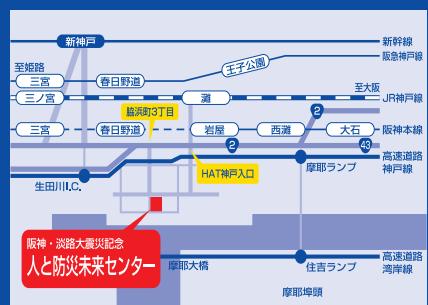
●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。

障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

### 交通マップ



■交通 鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約10分・JR「灘駅」南口から徒歩約12分。

阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。

バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。

神戸市営バス

三宮駅前から約1時間間隔で運転。

阪神電鉄バス

三宮駅前から約30分間隔で運転。

車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分・阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか近隣にも有料駐車場があります。

### ■バス待機所

予約制／無料

観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。

平成17年3月発行